

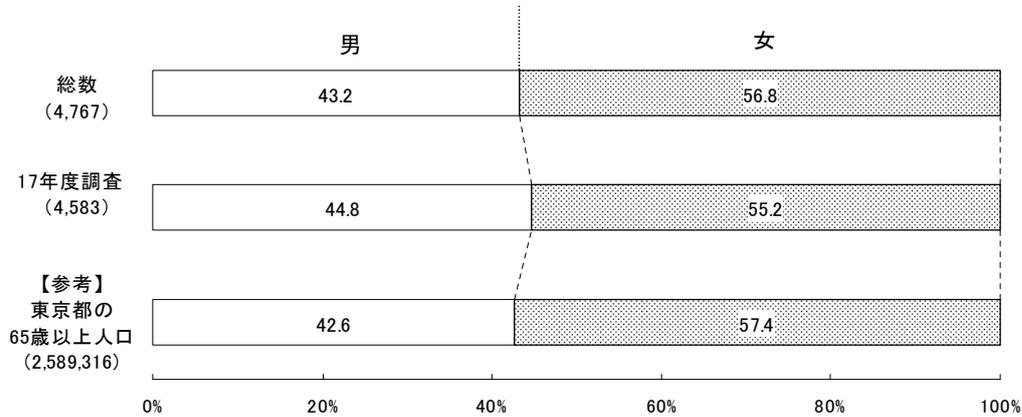
調査結果の概要

第1章 調査対象者の基本的属性

1 性別（報告書本文 P11）

本調査集計対象者の性別は、男性 43.2%、女性 56.8%である。（図 1-1）

図 1-1 性別－17年度調査、65歳以上都民との比較



【参考】

東京都の65歳以上人口は、「住民基本台帳による東京都の世帯と人口（平成23年1月1日）」（総務局）

2 年齢階級（報告書本文 P11）

平均年齢は、74.8歳である。年齢階級は、前期高齢者が53.3%、後期高齢者が46.7%であり、17年度調査と比較すると、前期高齢者が3.7ポイント減少している分、後期高齢者は3.7ポイント増加している。（表 1-1）

性別で見ると、男性は、前期高齢者の割合が57.9%、後期高齢者の割合が42.1%で、前期高齢者の割合が15.8ポイント高くなっているのに対し、女性は前期高齢者49.8%、後期高齢者50.2%で、ほぼ同じ割合となっている。

表 1-1 年齢階級－性別、17年度調査、65歳以上都民との比較

	総数	65～69歳	70～74歳	65歳～74歳 (再掲)	75～79歳	80～84歳	85歳以上	75歳以上 (再掲)	平均(歳)
22年度	100.0 (4,767)	27.4	25.9	53.3	22.4	14.6	9.8	46.7	74.8
男	100.0 (2,057)	30.4	27.5	57.9	21.7	13.0	7.4	42.1	73.9
女	100.0 (2,710)	25.0	24.8	49.8	22.9	15.8	11.5	50.2	75.4
17年度	100.0 (4,583)	27.9	29.1	57.0	20.8	13.5	8.7	43.0	74.4
男	100.0 (2,052)	31.4	29.7	61.2	20.4	11.5	6.9	38.8	73.9
女	100.0 (2,531)	25.0	28.6	53.7	21.2	15.0	10.1	46.3	74.9
【参考】東京都の65歳以上人口	100.0 (2,589,316)	28.6	24.6	53.3	20.8	13.9	12.0	46.7	-
男	100.0 (1,103,435)	31.9	26.3	58.2	21.0	12.6	8.1	41.8	-
女	100.0 (1,485,881)	26.2	23.4	49.6	20.6	14.8	14.9	50.4	-

(注) 65歳から74歳までを「前期高齢者」、75歳以上を「後期高齢者」という。

第2章 家族

1 世帯

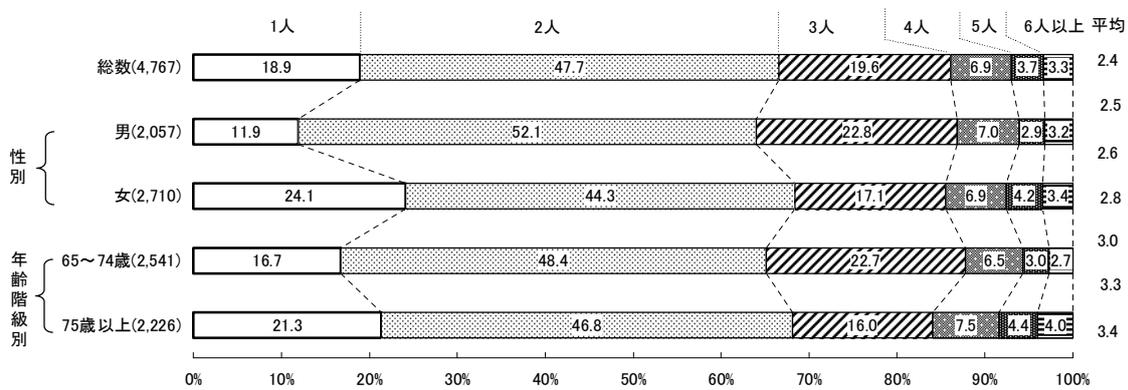
(1) 世帯人員一性・年齢階級別（報告書本文 P13）

ひとり暮らしの高齢者は、男性では10人に1人、女性では4人に1人

性別で見ると、ひとり暮らしである「1人」の割合は、男性11.9%、女性24.1%で、女性の方が12.2ポイント高くなっている。男性は10人に1人、女性は4人に1人がひとり暮らしとなっている。

年齢階級別に見ると、「1人」の割合は、前期高齢者（65～74歳）16.7%、後期高齢者（75歳以上）21.3%で、後期高齢者の方が4.6ポイント高く、2割を超えている。（図2-1）

図2-1 世帯人員一性・年齢階級別



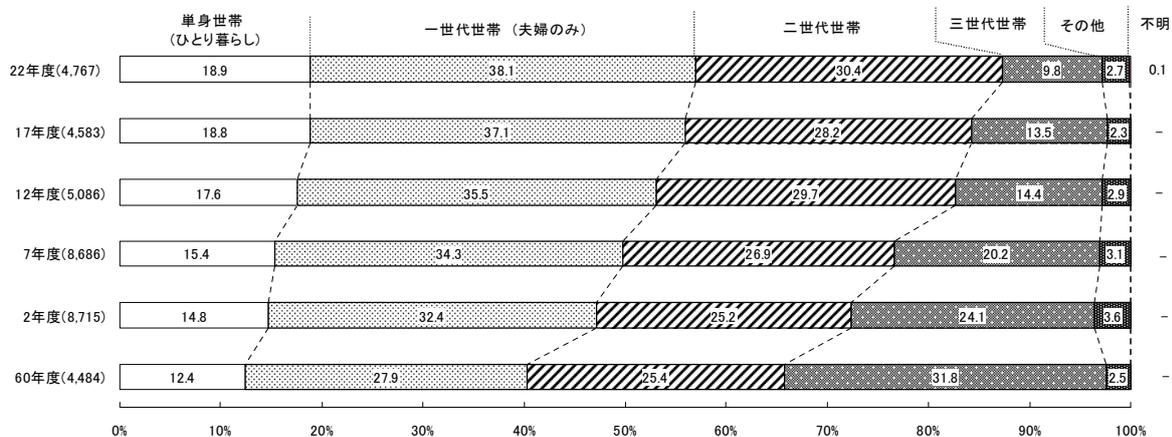
(2) 世帯構成（世代別）一過去調査との比較（報告書本文 P14）

三世帯世帯は減少を続け、昭和60年度調査と比べて22ポイントの減少

世帯構成を世代別に見ると、「一世代世帯（夫婦のみ）」の割合が最も高く38.1%、次いで「二世帯世帯」30.4%、「単身世帯（ひとり暮らし）」18.9%となっている。

三世帯世帯は減少を続け、昭和60年度調査と比べて、22.0ポイント減少している。（図2-2）

図2-2 世帯構成（世代別）一過去調査との比較



(注) 昭和55年度は、世代の集計を行っていない。

(3) 世帯構成（世代別）一性・年齢階級、地域別（報告書本文 P15）

後期高齢者の「単身世帯（ひとり暮らし）」の割合は、男性で約 1 割、女性で約 3 割

世帯構成（世代別）を性別で見ると、男女とも、「一世代世帯（夫婦のみ）」の割合が最も高く（男性 48.1%、女性 30.6%）、次いで「二世帯世帯〔親と子〕」（男性 30.4%、女性 30.4%）となっている。

年齢階級別に見ると、後期高齢者（75 歳以上）の「単身世帯（ひとり暮らし）」の割合は、男性 10.4%、女性 28.3%で、女性の方が 17.9 ポイント高くなっている。

地域別に見ると、「単身世帯（ひとり暮らし）」の割合は、区部 20.4%、市町村部 15.9%で区部の方が 4.5 ポイント高くなっている。一方、「一世代世帯（夫婦のみ）」は、区部 35.6%、市町村部 42.9%で、市町村部の方が 7.3 ポイント高くなっている。（表 2-1）

表 2-1 世帯構成（世代別）一性・年齢階級、地域別

	総数	単身世帯 （ひとり暮らし）	一世代世帯 （夫婦のみ）	二世帯世帯 〔親と子〕	三世帯世帯 〔親と子と孫〕		三世帯世帯 〔親と子と孫〕	本人1が親	本人2が子	その他	不明	
					本人1が親	本人2が子						
総数	100.0 (4,767)	18.9	38.1	30.4	29.3	1.1	9.8	9.2	0.6	2.7	0.1	
性・年齢階級別	男	100.0 (2,057)	11.9	<u>48.1</u>	<u>30.4</u>	28.8	1.6	7.2	6.3	0.9	2.2	0.1
	65～69歳	100.0 (626)	13.7	40.1	37.4	34.0	3.4	6.2	4.0	2.2	2.2	0.3
	70～74歳	100.0 (565)	12.2	51.0	29.4	27.6	1.8	4.8	3.9	0.9	2.7	-
	75～79歳	100.0 (446)	9.4	57.4	24.7	24.4	0.2	6.1	6.1	-	2.5	-
	80～84歳	100.0 (267)	7.9	49.8	28.8	28.8	-	12.4	12.4	-	1.1	-
	85歳以上	100.0 (153)	17.6	40.5	24.8	24.8	-	15.0	15.0	-	2.0	-
	75歳以上 (再掲)	100.0 (866)	<u>10.4</u>	52.1	26.0	25.9	0.1	9.6	9.6	-	2.0	-
	女	100.0 (2,710)	24.1	<u>30.6</u>	<u>30.4</u>	29.6	0.8	11.7	11.4	0.3	3.1	0.1
	65～69歳	100.0 (678)	17.3	41.0	33.2	31.0	2.2	5.9	5.3	0.6	2.5	0.1
	70～74歳	100.0 (672)	22.6	35.3	29.3	28.4	0.9	10.1	9.8	0.3	2.7	-
	75～79歳	100.0 (620)	25.8	33.1	24.4	24.2	0.2	13.7	13.4	0.3	3.1	-
	80～84歳	100.0 (428)	35.3	20.3	27.8	27.8	-	12.9	12.9	-	3.7	-
	85歳以上	100.0 (312)	23.7	6.7	42.3	42.3	-	22.4	22.4	-	4.5	-
	75歳以上 (再掲)	100.0 (1,360)	<u>28.3</u>	23.0	29.6	29.5	0.1	15.4	15.3	0.1	3.6	0.1
地域別	区部	100.0 (3,123)	<u>20.4</u>	<u>35.6</u>	31.2	30.2	1.0	9.5	9.0	0.5	3.2	0.1
	市町村部	100.0 (1,644)	<u>15.9</u>	<u>42.9</u>	28.9	27.4	1.5	10.3	9.6	0.7	1.8	0.1

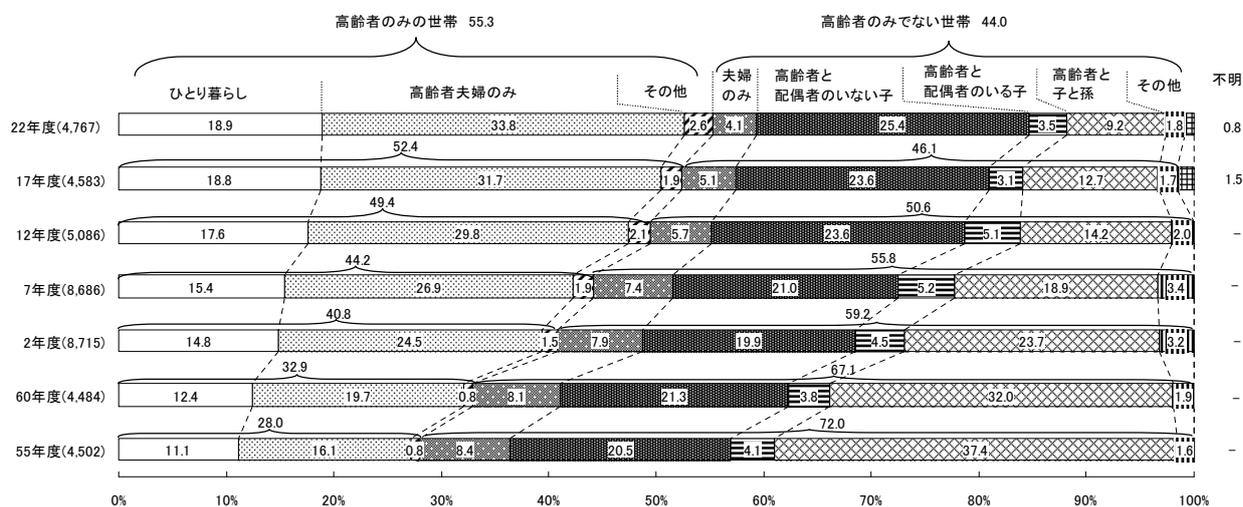
(4) 世帯類型—過去調査との比較（報告書本文 P16）

「高齢者と子と孫」の世帯の割合は、30年前の約4分の1に減少

世帯構成を世帯類型別で見ると、「高齢者のみの世帯」の割合は55.3%で、調査を開始した昭和55年から一貫して増加し続け、昭和55年度調査と比べて27.3ポイント増加している。

「高齢者のみでない世帯」の割合は一貫して減少し続け、中でも「高齢者と子と孫の世帯」の割合は9.2%で、昭和55年度調査と比べると30年間で28.2ポイント減少している。一方で、「高齢者と配偶者のいない子の世帯」の割合は増加傾向にあり、25.4%となっている。（図2-3）

図2-3 世帯類型—過去調査との比較



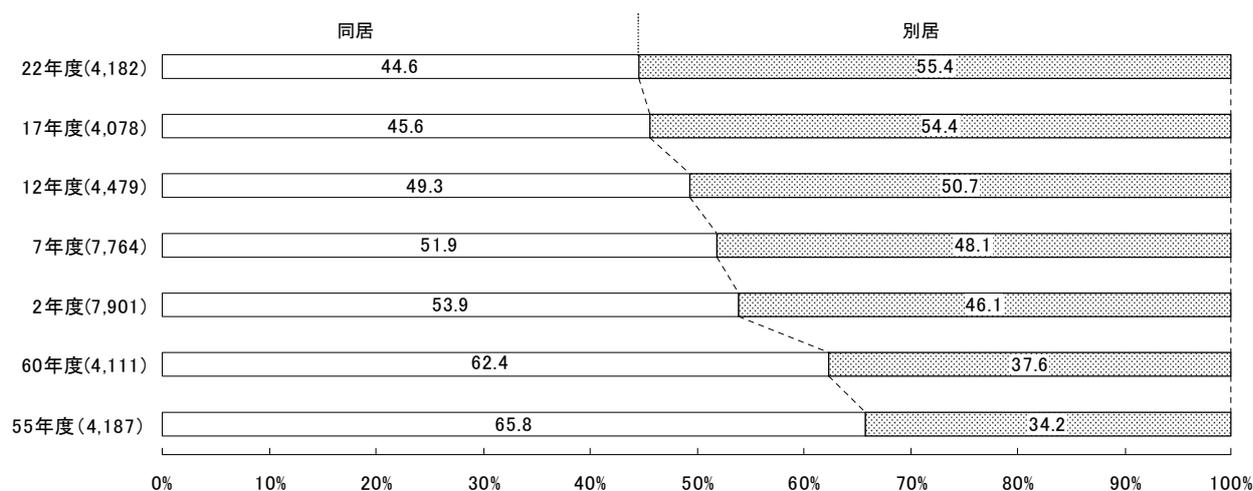
2 子供との関係

(1) 子供との同居・別居の状況－過去調査との比較（報告書本文 P23）

子供と「同居している」人の割合は、30年間で20ポイント以上減少

子供がいる人(4,182人)に、子供との同居・別居について聞いたところ、「同居」は44.6%、「別居」は55.4%であった。「同居」の割合は、17年度調査と比べるとほぼ横ばいであるが、過去の調査と比べると、「同居」の割合は一貫して減少しており、昭和55年度調査と比べると、30年間で21.2ポイント減少している。(図2-4)

図2-4 子供との同居・別居の状況－過去調査との比較

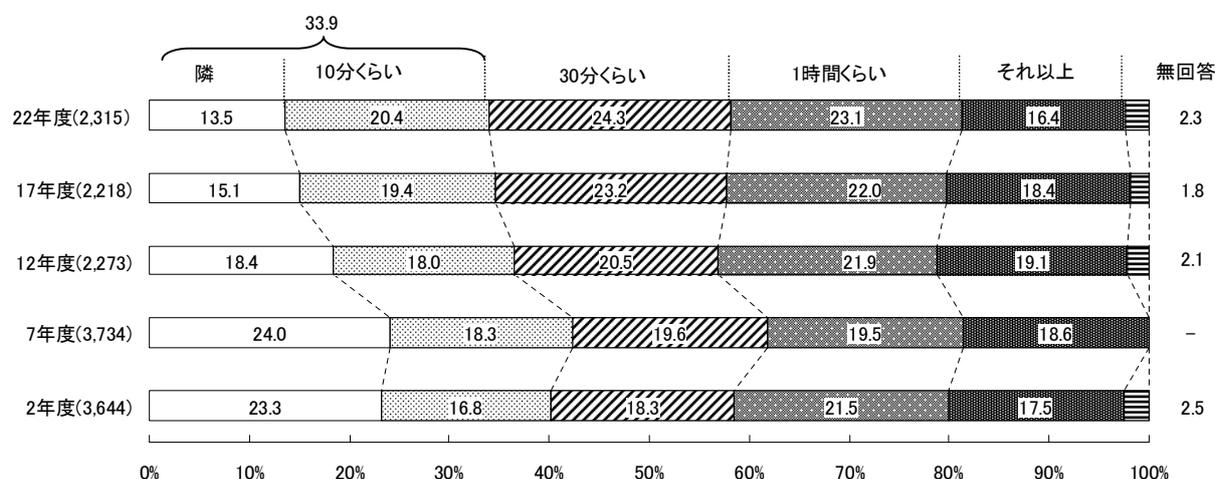


(2) 別居している子供との距離－過去調査との比較（報告書本文 P24）

3人に1人は、自宅から10分くらいまでの距離に子供が住んでいる

子供と別居している高齢者(2,315人)に子供との距離を聞いたところ、「隣」と「10分くらい」を合わせた割合は33.9%で、3人に1人の高齢者が子供のすぐ近くに住んでいる。平成2年度調査と比べると、20年間で「隣」は9.8ポイント減少している。(図2-5)

図2-5 別居している子供との距離－過去調査との比較



3 介護の状況(対象者本人が介護をしている状況)

(1) 介護の状況と介護をしている相手(複数回答)(報告書本文 P27)

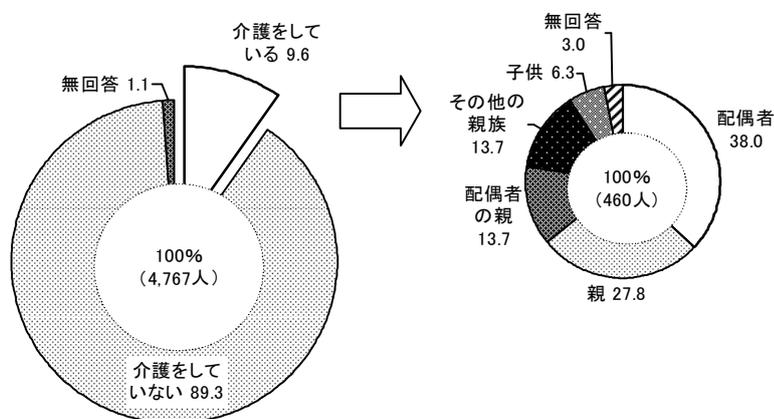
「介護をしている」人の割合は約1割

調査対象者本人が介護をしているかについて聞いたところ、「介護をしている」人の割合は9.6%、「介護をしていない」人は89.3%となっている。

介護をしている人(460人)に介護をしている相手について聞いたところ、「配偶者」の割合が最も高く38.0%、次いで、「親」27.8%、「配偶者の親」13.7%、「その他の親族」13.7%と続いている。(図2-6)

問 家族・親族の介護や世話・見守り等をしていますか。
 ※ 同居・別居、時間の長短は問いません。

図2-6 介護の状況と介護をしている相手(複数回答)



第3章 健康

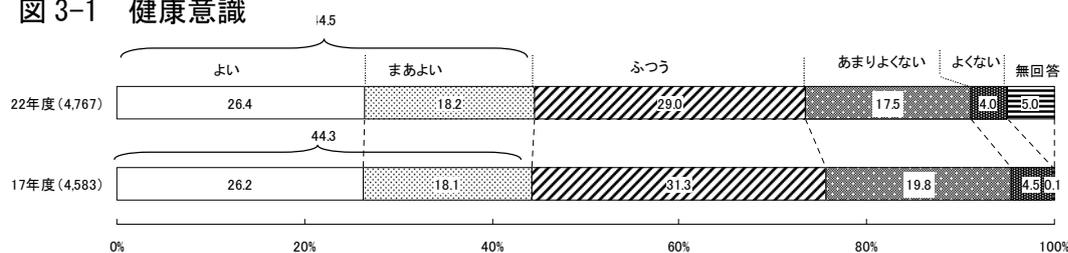
1 健康意識(報告書本文 P29)

「よい」と「まあよい」を合わせた割合は44.5%

健康状態をどのように感じているか聞いたところ、「ふつう」の割合が最も高く29.0%、次いで「よい」が26.4%となっている。また、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は44.5%となっている。

17年度調査と比較すると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、ほとんど変化していない。(図3-1)

図3-1 健康意識



(注)統計比率を合算した比率(44.5%)は、個々の数値を合算して求めているため、比率の内訳とは一致しない。

2 日常生活動作（ADL）

(1) 日常生活動作（ADL）（総合）－17年度調査との比較（報告書本文 P39）

日常生活動作（ADL）を総合的に見ると、生活自立の高齢者の割合が9割超

日常生活動作（ADL）を総合的に見るため、下記の表 3-2 の段階に分けて聞いたところ、「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」の割合は91.3%で、自立した高齢者の割合は9割を超えている。（図 3-2）

図 3-2 日常生活動作（ADL）（総合）－17年度調査との比較

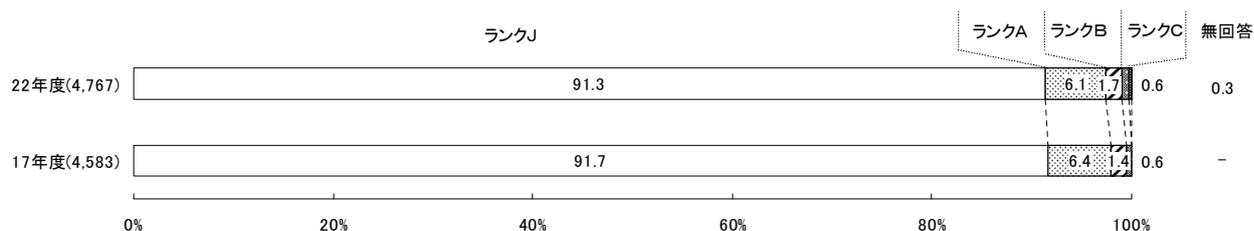


表 3-1 日常生活動作（総合）

ラ ン ク J	生 活 自 立	日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる 1 バス・電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる 2 となり近所への買い物や老人会などへの参加など、町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる
ラ ン ク A	準 ね た き り	食事、着替え、排泄はだいたい自分でできるが、外出するには介助が必要である 1 介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
ラ ン ク B	ね た き り	食事、着替え、排泄のいずれかにおいて部分的に介助を必要とし、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる 1 自分で車いすなどに座り、食事、排泄はベッドから離れて行う 2 介助により車いすなどに座り、食事、排泄は介助が必要である
ラ ン ク C	き り	1 日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排泄のいずれにおいても全面的な介助が必要である 1 自力で寝返りをうつことができる 2 自力で寝返りをうつことができない

(注) ランクの区分は「障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」（厚生労働省）による。

4 食事の状況

(1) 食事の状況（報告書本文 P52）

普段の食事の用意は、「3食とも自分が料理する」の割合が最も高く、約5割

普段の食事（直近3日間）の状況について聞いたところ、3食（朝食、昼食、夕食）の用意の仕方が3日間とも同じ人の割合が最も高く78.3%となっている。（図3-3）

3食（朝食、昼食、夕食）の用意の仕方が3日間とも同じ人（3,732人）のうち、最も割合が高かったのは、「3食とも自分が料理する」で48.5%、次いで「3食とも配偶者が料理する」が24.8%となっている。（図3-4）

問 あなたの普段の食事の状況について、お聞きします。食事の用意等は主にどのようにしていますか。

図3-3 食事の状況(3食のパターン)

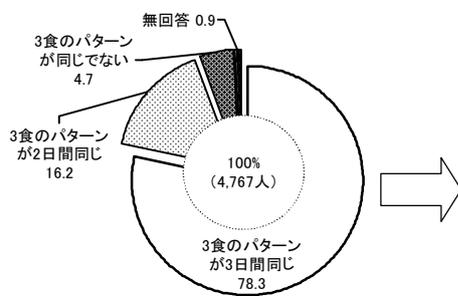
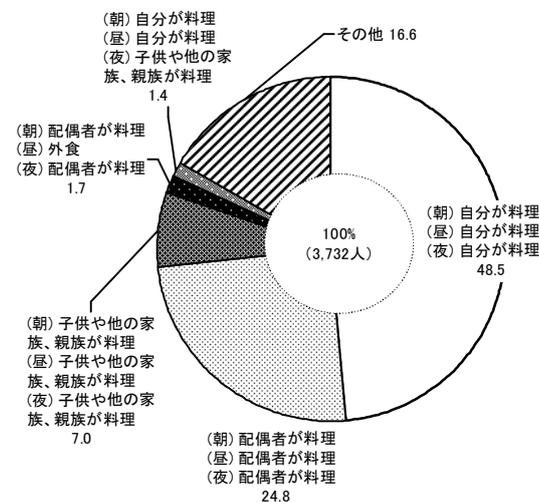


図3-4 食事の状況(3食のパターンが3日間同じ)



第4章 介護保険制度

1 要介護認定の申請の有無

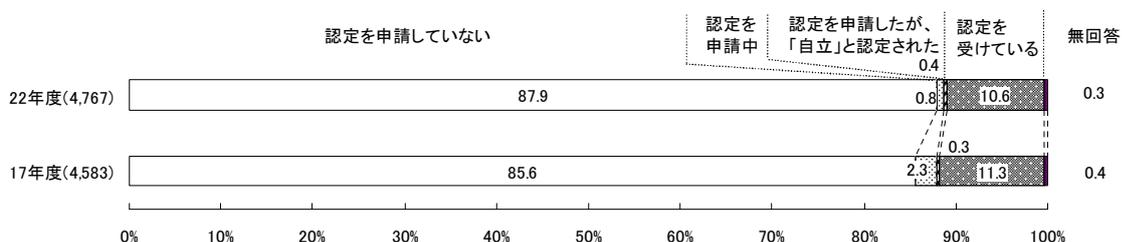
(1) 要介護認定の申請の有無（報告書本文 P55）

「認定を申請していない」人の割合は、約9割

介護保険制度の要介護認定を受けているかどうか聞いたところ、「認定を申請していない」の割合は87.9%、「認定を受けている」は10.6%となっている。（図4-1）

問 あなたは現在、介護保険制度の要介護認定を受けていますか。

図4-1 要介護認定の申請の有無



2 要介護度及び介護の状況

(1) 要介護度一性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別（報告書本文 P59）

男性は「要介護2」の割合が最も高く、女性は「要支援1」の割合が最も高い

要介護認定を受けている人（505人）に要介護度について聞いたところ、「要支援1」の割合が最も高く22.0%、次いで「要介護2」が18.0%、「要支援2」が17.6%となっている。性別に見ると、男性は「要介護2」の割合が最も高く24.3%、女性は「要支援1」の割合が最も高く21.9%となっている。（表4-1）

問 現在の要介護度はいくつですか。

表4-1 要介護度一性・年齢階級別、動作能力類型、世帯類型別

		総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
総数		100.0 (505)	22.0	17.6	15.6	18.0	11.5	7.9	5.7	1.6
性別	男	100.0 (144)	22.2	14.6	12.5	24.3	9.7	11.8	3.5	1.4
	女	100.0 (361)	21.9	18.8	16.9	15.5	12.2	6.4	6.6	1.7
年齢階級別	65～74歳	100.0 (70)	20.0	18.6	14.3	22.9	7.1	5.7	8.6	2.9
	75～84歳	100.0 (235)	24.7	19.6	17.0	17.9	6.4	8.5	3.8	2.1
	85歳以上	100.0 (200)	19.5	15.0	14.5	16.5	19.0	8.0	7.0	0.5
	75歳以上(再掲)	100.0 (435)	22.3	17.5	15.9	17.2	12.2	8.3	5.3	1.4
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (299)	7.4	11.7	15.1	23.7	18.4	12.7	9.7	1.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (59)	37.3	27.1	18.6	13.6	-	3.4	-	-
	軽い障害のある高齢者	100.0 (90)	45.6	27.8	13.3	8.9	1.1	-	-	3.3
	障害のない高齢者	100.0 (53)	47.2	20.8	20.8	5.7	3.8	-	-	1.9
世帯類型別	高齢者のみ世帯	100.0 (284)	28.5	20.4	15.1	16.9	8.8	6.0	2.5	1.8
	ひとり暮らし	100.0 (126)	34.9	27.8	15.9	6.3	9.5	1.6	2.4	1.6
	高齢者夫婦のみ	100.0 (127)	23.6	15.7	13.4	27.6	5.5	10.2	2.4	1.6
	その他の高齢者のみ	100.0 (31)	22.6	9.7	19.4	16.1	19.4	6.5	3.2	3.2
	高齢者のみでない世帯	100.0 (209)	13.4	13.9	15.8	20.1	14.8	10.5	10.0	1.4
	その他の世帯	100.0 (8)	12.5	12.5	37.5	12.5	12.5	-	12.5	-

《参考》17年度調査

	総数	申請認定中を	(非該当)	要支援	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	無回答
総数	100.0 (650)	16.2	2.5	19.4	28.8	15.5	7.5	6.0	2.8	1.4

3 望む介護のあり方

(1) 介護が必要になった場合、利用したい介護サービス(複数回答)

－性・年齢階級、介護の状況、望む在宅介護の形態別（報告書本文 P73）

「わからない」の割合が最も高く、約4割

要介護認定を申請していない人（4,189人）に、介護が必要になった場合に利用したい介護サービスはどれか聞いたところ、「わからない」の割合が最も高く、37.5%となっている。

利用したい介護サービスの中では、「ホームヘルパー等から、自宅等において、生活全般の介護及び看護を受けるサービス」の割合が最も高く33.8%となっている。

性別に見ると、女性は、「受けない介護サービスはない」、「わからない」を除くすべての項目で、男性より高い割合になっている。

介護の状況別に見ると、「ホームヘルパー等から、自宅等において、生活全般の介護及び看護を受けるサービス」の割合は、介護している人は43.6%、介護していない人は32.4%で、介護している人の方が10ポイント以上高くなっている。

望む在宅介護の形態別に見ると、「受けない介護サービスはない」の割合が、家族や親族による介護を望む人は23.1%で、他の形態を望む人と比較して、10ポイント以上高くなっている。（表4-2）

問 あなたが今後介護が必要になった場合、利用したい介護サービスはどれですか。

表4-2 介護が必要になった場合、利用したい介護サービス(複数回答)

－性・年齢階級、介護の状況、望む在宅介護の形態別

		総数	生活全般の介護を受けるサービス及び看護	ホームヘルパー等から、自宅等において、生活全般の介護を受けるサービス	日帰り施設に通いながら、生活全般の世話を受けるサービス	短期間の世話を受けるサービス	老人ホームなどの施設入所	福祉用具の給付、住宅改修費の支給	老人ホームや病院など施設での介護	受けない介護サービスはない	わからない	無回答
総数		100.0 (4,189)	33.8	20.6	10.1	15.2	16.0	9.4	37.5	3.7		
性別	男	100.0 (1,886)	31.7	18.8	8.6	14.1	14.8	9.8	40.0	4.6		
	女	100.0 (2,303)	35.5	22.1	11.2	16.2	16.9	9.0	35.5	3.0		
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,446)	33.5	21.8	10.4	16.2	16.9	8.7	38.3	3.6		
	75～84歳	100.0 (1,490)	34.0	19.5	9.9	14.2	14.7	9.9	36.8	3.4		
	85歳以上	100.0 (253)	34.8	15.4	7.9	11.5	14.6	12.3	34.4	6.3		
	75歳以上(再掲)	100.0 (1,743)	34.1	18.9	9.6	13.8	14.7	10.2	36.4	3.8		
状況別	介護している	100.0 (433)	43.6	25.9	11.3	22.2	21.7	5.5	29.6	2.3		
	介護していない	100.0 (3,715)	32.4	19.8	9.9	14.4	15.3	9.9	38.7	3.8		
望む在宅介護の形態別	家族や親族による介護	100.0 (532)	16.9	8.1	3.8	8.8	5.1	23.1	49.1	1.7		
	家族や親族の介護を中心に、介護サービスも利用する	100.0 (1,238)	33.9	20.3	7.4	15.2	9.6	9.0	41.0	2.7		
	介護サービスを中心に、家族や親族の介護も受ける	100.0 (1,291)	44.5	29.7	14.6	20.8	19.2	5.0	32.8	2.0		
	介護サービスのみを利用する	100.0 (894)	34.2	18.5	11.9	13.4	28.4	8.1	31.8	1.6		

(2) 在宅で介護を受ける場合に望む介護のあり方（報告書本文 P74）

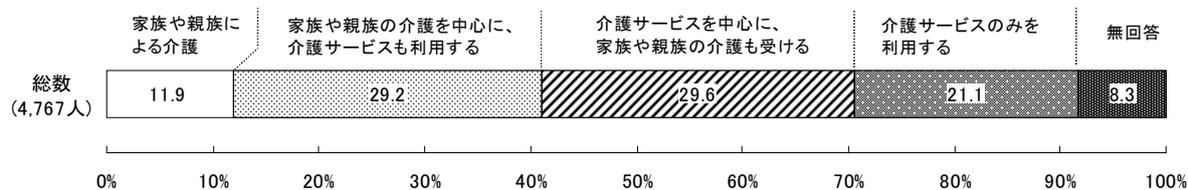
望む在宅介護のあり方は、「介護サービスを中心に、家族や親族の介護も受ける」、「家族や親族の介護を中心に、介護サービスも利用する」の割合がそれぞれ約3割

自分自身に介護が必要となり、在宅で介護を受ける場合に、どのような対応を望むかを聞いたところ、「介護サービスを中心に、家族や親族の介護も受ける」の割合が最も高く29.6%、次いで「家族や親族の介護を中心に、介護サービスも利用する」が29.2%となっている。（図4-2）

問 あなたが今後介護が必要になり、在宅で介護を受ける場合に望む介護のあり方はどのようなものですか。

※ 現在介護を受けている方は、現況にかかわらず、望むあり方をお答えください

図4-2 介護が必要になった場合に望む介護のあり方



4 日常生活支援サービスの利用状況(複数回答)

(1) 日常生活支援サービスの利用状況(複数回答)(報告書本文 P76)

日常生活支援サービスを「利用している」人の割合は、1割以下

日常の生活を支援するサービス(介護保険対象外、民間・公的を問わない)の利用状況について聞いたところ、「利用していない」の割合が93.1%で、「利用している」人は、6.2%であった。(図4-3)

利用している人(296人)に利用しているサービスについて聞いたところ、「家事援助(掃除・洗濯・買い物など)」の割合が最も高く48.0%、次いで「配食サービス」が35.1%となっている。(図4-4)

問 あなたは、現在、日常の生活を支援するサービスを利用していますか。

※ 家事援助や通院の付き添い等、介護保険サービスを受けていても保険内の利用では足りず、自費でサービスを利用している場合も含めます

図4-3 日常生活支援サービスの利用状況(複数回答)

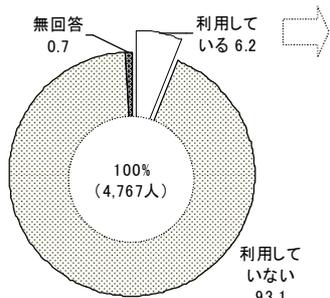
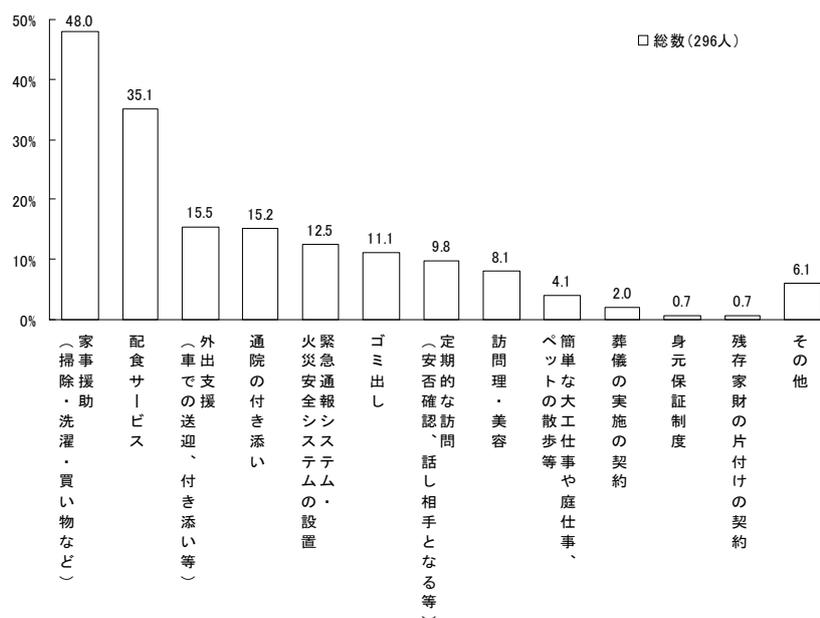


図4-4 利用しているサービス(複数回答)



(2) 日常生活支援サービスの利用状況（複数回答）－性・年齢階級、世帯類型別

（報告書本文 P77）

男女とも年齢階級が上がるにつれて、「配食サービス」と「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が上がっている

日常の生活を支援するサービス（介護保険対象外、民間・公的を問わない）の利用状況について、性・年齢階級別に見ると、男女とも年齢階級が上がるにつれて、「配食サービス」と「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が上がっている。

特に男性 85 歳以上では、「配食サービス」が 10.5%、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」が 11.8%、女性 85 歳以上では「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」が 11.5%でそれぞれ 1 割を超えている。

世帯類型別に見ると、ひとり暮らしの人は、「配食サービス」の割合が 5.0%、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」が 7.5%で、総数の割合（2.2%、3.0%）に比べて高くなっている。

（表 4-3）

表 4-3 日常生活支援サービスの利用状況（複数回答）－性・年齢階級、世帯類型別

		総数	配食サービス	家事援助（掃除、洗濯、買い物など）	簡単な大工事や庭仕事、ペットの散歩等	ゴミ出し	外出支援（車での送迎、付き添い等）	通院の付き添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）	緊急通報システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片付けの契約	その他	ない	利用しているサービスは	無回答
総数		100.0 (4,767)	2.2	3.0	0.3	0.7	1.0	0.9	0.6	0.8	0.5	0.0	0.1	0.0	0.4	93.1	0.7	
性・年齢階級別	男	100.0 (2,057)	2.1	1.8	0.1	0.4	0.4	0.6	0.4	0.5	0.3	-	0.1	0.0	0.1	94.9	0.8	
	65～74歳	100.0 (1,191)	0.9	0.4	-	-	0.3	0.3	0.1	0.2	-	-	0.3	-	0.2	96.9	0.9	
	75～84歳	100.0 (713)	2.4	1.8	0.3	0.6	0.6	0.8	0.6	0.7	0.4	-	-	0.1	0.1	94.4	0.4	
	85歳以上	100.0 (153)	10.5	11.8	-	2.6	0.7	2.0	2.6	2.0	2.6	-	-	-	-	81.7	1.3	
	75歳以上(再掲)	100.0 (866)	3.8	3.6	0.2	0.9	0.6	1.0	0.9	0.9	0.8	-	-	0.1	0.1	92.1	0.6	
	女	100.0 (2,710)	2.2	3.9	0.4	0.9	1.4	1.2	0.7	1.0	0.6	0.1	0.1	0.0	0.6	91.7	0.7	
	65～74歳	100.0 (1,350)	0.7	0.9	0.1	0.2	0.5	0.4	0.4	0.5	0.1	0.1	0.1	-	0.1	97.1	0.7	
	75～84歳	100.0 (1,048)	3.1	5.5	0.5	1.3	1.4	1.6	0.8	1.1	0.9	0.1	0.1	0.1	0.5	88.9	0.8	
	85歳以上	100.0 (312)	5.4	11.5	1.3	2.6	5.1	3.2	1.9	2.6	2.2	-	-	-	2.6	77.6	0.3	
	75歳以上(再掲)	100.0 (1,360)	3.7	6.9	0.7	1.6	2.3	2.0	1.0	1.5	1.2	0.1	0.1	0.1	1.0	86.3	0.7	
世帯類型別	高齢者のみ世帯	100.0 (2,634)	3.0	4.3	0.4	1.1	1.1	1.0	0.8	1.1	0.5	-	0.1	0.0	0.3	91.6	0.8	
	ひとり暮らし	100.0 (899)	5.0	7.5	0.7	2.1	1.6	1.6	1.8	2.3	0.7	-	0.2	0.1	0.4	87.0	0.9	
	高齢者夫婦のみ	100.0 (1,611)	1.9	2.5	0.2	0.5	0.6	0.6	0.4	0.6	0.4	-	0.1	-	0.2	94.3	0.7	
	その他の高齢者のみ	100.0 (124)	2.4	4.0	-	0.8	4.0	2.4	-	-	-	-	-	-	0.8	89.5	0.8	
	高齢者のみでない世帯	100.0 (2,013)	1.2	1.3	0.1	0.2	0.9	0.8	0.3	0.3	0.5	0.1	0.1	0.0	0.4	95.0	0.6	
	その他の世帯	100.0 (84)	1.2	1.2	-	-	-	1.2	-	1.2	-	-	-	-	-	94.0	1.2	

(3) 日常生活支援サービスの利用状況（複数回答）

－動作能力類型、要介護認定の有無別（報告書本文 P78）

要介護認定を受けている人では「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」が約 2 割

日常生活を支援するサービス（介護保険対象外、民間・公的を問わない）の利用状況について、動作能力類型別に見ると、ねたきり高齢者では、「配食サービス」（11.0%）、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」（11.0%）、「外出支援（車での送迎、付き添い等）」（12.8%）、「訪問理・美容」（10.1%）、ねたきりに近い高齢者では、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」（15.8%）が、それぞれ 1 割を超えている。

要介護認定の有無別に見ると、認定を受けている人では、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」が 21.0% で、約 2 割となっている。（表 4-4）

表 4-4 日常生活支援サービスの利用状況（複数回答）

－動作能力類型、要介護認定の有無別

	総数	配食サービス	家事援助（掃除、洗濯、買い物など）	簡単な大工事や庭仕事、ペットの散歩等	ゴミ出し	外出支援（車での送迎、付き添い等）	通院の付き添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）	緊急通報システム・火災安全システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片付けの契約	その他	利用しているサービスは	無回答	
総数	100.0 (4,767)	2.2	3.0	0.3	0.7	1.0	0.9	0.6	0.8	0.5	0.0	0.1	0.0	0.4	93.1	0.7	
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (401)	8.7	14.5	0.7	3.7	8.7	7.2	3.2	2.5	4.7	-	-	-	2.2	67.3	2.0
	ねたきり高齢者	100.0 (109)	11.0	11.0	-	3.7	12.8	7.3	4.6	3.7	10.1	-	-	-	4.6	57.8	5.5
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (292)	7.9	15.8	1.0	3.8	7.2	7.2	2.7	2.1	2.7	-	-	-	1.4	70.9	0.7
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (417)	3.4	4.3	0.7	1.7	0.7	1.7	1.0	1.2	0.2	-	-	-	-	89.9	0.7
	軽い障害のある高齢者	100.0 (1,043)	2.5	3.4	0.3	0.6	0.7	0.7	0.6	1.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.7	92.9	0.6
	障害のない高齢者	100.0 (2,872)	1.0	1.0	0.1	0.2	0.0	0.1	0.2	0.3	0.0	0.0	0.1	-	0.1	97.2	0.5
要介護認定の有無別	認定を申請していない	100.0 (4,189)	1.0	0.8	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.3	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	97.1	0.5
	認定を申請中	100.0 (40)	5.0	2.5	-	-	-	2.5	-	-	-	-	-	-	-	90.0	-
	認定を申請したが、「自立」と認定された	100.0 (21)	-	14.3	-	-	-	4.8	-	-	-	-	-	-	-	81.0	-
	認定を受けている	100.0 (505)	11.9	21.0	1.0	5.5	7.9	6.9	5.0	4.6	4.2	-	0.2	0.2	3.0	60.2	2.0

5 日常生活支援サービスの利用意向(複数回答)

(1) 日常生活支援サービスの利用意向(複数回答)(報告書本文 P79)

日常生活支援サービスで利用したいサービスは、「家事援助(掃除・洗濯・買い物など)」の割合が最も高く、約4割

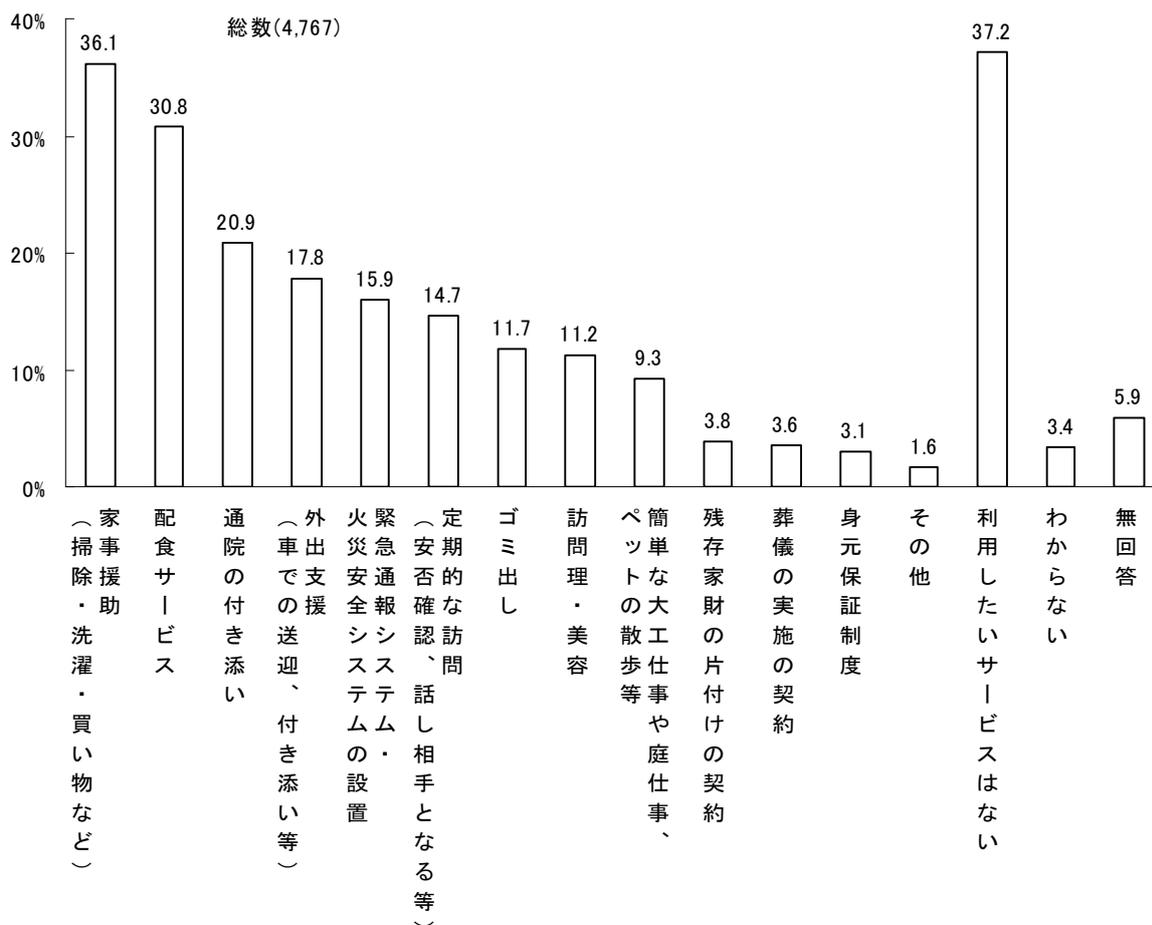
今後、利用したい日常生活支援サービスについて聞いたところ、「利用したいサービスはない」の割合が最も高く、37.2%となっている。

利用したいサービスについて見ると、「家事援助(掃除・洗濯・買い物など)」の割合が36.1%、次いで「配食サービス」が30.8%、「通院の付き添い」20.9%となっている。(図4-5)

問 今後、利用したいと思うサービスすべてに○をつけてください。

※ 現在利用していない方は、今後、体の具合が悪くなる等で必要になった場合に利用したいサービスに○をつけてください

図4-5 日常生活支援サービスの利用意向(複数回答)



第5章 認知症と成年後見制度等

1 認知症

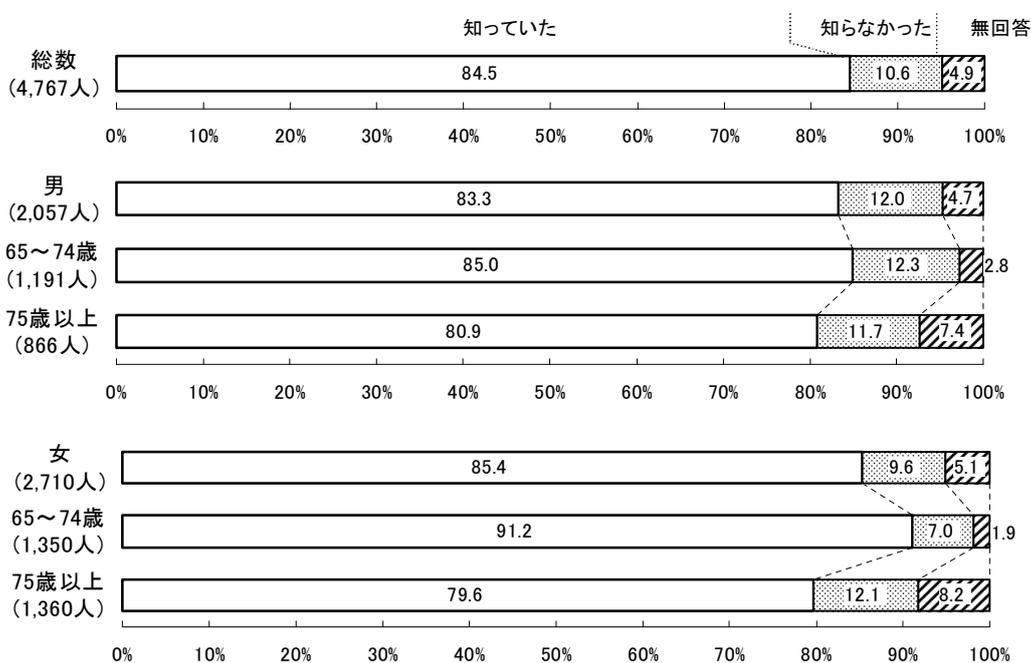
(1) 認知症に関する理解度①一性・年齢階級別（報告書本文 P81）

「知っていた」割合は、女性 65～74 歳では約 9 割

認知症に関する知識について聞いたところ、「知っていた」の割合は 84.5%であった。特に女性 65～74 歳では 91.2%で、約 9 割となっている。（図 5-1）

問 認知症は脳の障害によって、記憶力・判断力・理解力が低下する誰もがかかる可能性のある病気であり、早期に医療機関の受診が必要であることを知っていますか

図 5-1 認知症に関する理解度①一性・年齢階級別



2 成年後見制度及び日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)

(1) 成年後見制度の認知度一性・年齢階級、動作能力類型、成年後見制度の利用意向別

(報告書本文 P86)

「知っている」割合が 35.9%、「知らない」割合が 35.5%

成年後見制度の認知度を聞いたところ、「知っている」割合が 35.9%、「知らない」割合が 35.5%となっている。

「知っている」割合は、年齢階級別に見ると 65～74 歳が 40.4%、動作能力類型別に見ると、障害のない高齢者が 41.7%で、それぞれ最も高くなっている。

また、成年後見制度の利用意向別に見ると利用したいと考える人は、制度を「知っている」人の 51.9%で、5 割を超えている。(表 5-1)

問 「成年後見制度」と「日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)」についてお伺いします。あなたはこれらの制度を知っていましたか。

表 5-1 成年後見制度の認知度一性・年齢階級、動作能力類型、成年後見制度の利用意向別

		総数	知っている	だが中 こ、身 が言は が葉知 あはら る聞 ない	知らない	無回答
総数		100.0 (4,767)	35.9	23.4	35.5	5.2
性別	男	100.0 (2,057)	36.4	24.0	35.2	4.4
	女	100.0 (2,710)	35.5	22.9	35.8	5.8
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,541)	40.4	25.1	32.1	2.4
	75～84歳	100.0 (1,761)	32.9	23.2	38.3	5.6
	85歳以上	100.0 (465)	22.8	14.4	43.7	19.1
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (401)	17.2	14.0	32.9	35.9
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (417)	26.9	23.5	44.1	5.5
	軽い障害のある高齢者	100.0 (1,043)	31.1	25.7	39.6	3.6
	障害のない高齢者	100.0 (2,872)	41.7	23.8	33.3	1.2
成年後見意向別	利用したい	100.0 (395)	51.9	22.0	25.8	0.3
	利用したいと思わない	100.0 (2,309)	46.4	23.8	29.8	0.1
	既に利用している	100.0 (13)	92.3	-	7.7	-
	わからない	100.0 (1,794)	23.2	26.4	50.2	0.2

《参考》17年度調査	総数	言葉も内容も知っていた	言葉は知っていたが、内容は今回はじめて知った	言葉も内容も、今回はじめて知った	チラシを見たが、よくわからない	無回答
	100.0 (4,583)	31.7	20.4	39.4	6.5	2.0

第6章 住まい

1 住宅の状況

(1) 住宅の種類（報告書本文 P91）

「持家」の割合は、約8割

現在、住んでいる住宅の種類を聞いたところ、「持ち家（一戸建て）」の割合が最も高く61.1%、次いで「持ち家（分譲マンションなど）」17.3%となっている。

持家・借家別に見ると、「持家」が約8割（78.4%）、「借家・賃貸住宅等」が約2割（21.1%）となっている。

17年度調査と比較すると、「持ち家（一戸建て）」の割合は8.3ポイント低くなり、「持ち家（分譲マンションなど）」は、7.2ポイント高くなっている。（表6-1）

問 あなたが現在お住まいの住宅は、次のどれにあたりますか。

表6-1 住宅の種類

	総数	持家			借家・賃貸住宅等	民間賃貸住宅	都・区・市・町村の公営賃貸住宅	団・都・市再生機構（旧公宅）・公社などの賃貸住宅	借家（一戸建て）	高齢者向け住宅等	その他	無回答
		持ち家（一戸建て）	（分譲マンションなど）									
22年度	100.0 (4,767)	78.4	61.1	17.3	21.1	8.6	5.2	5.5	1.3	0.5	0.3	0.2
17年度	100.0 (4,583)	79.5	69.4	10.1	19.2	9.0	7.9	1.2	1.2	0.5	0.6	0.2

(注) 高齢者向け住宅等とは、シルバーピア、高齢者向け優良賃貸住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなどを指す。

2 希望する高齢期の住まい

(1) 希望する高齢期の住まい（報告書本文 P104）

「現在の住宅にそのまま住み続けたい」割合が最も高く、約7割

希望する高齢期の住まいについて聞いたところ、「現在の住宅にそのまま住み続けたい」の割合が最も高く72.4%となっている。

「高齢者用の住宅・施設に住み替えたい」の割合は11.6%となっている。（表6-2）

問 あなたは、高齢期の住まいについて、どのようにしたいと思いますか。

表6-2 希望する高齢期の住まい

	総数	在宅で暮らしたい	現在の住宅にそのまま住み続けたい		高 齢 者 用 の 住 宅 ・ 施 設 に 住 み 替 え た い	健 康 な う ち に 、 シ ル バ ー ビ ア 、 高 齢 者 専 用 賃 貸 住 宅 な ど に 入 居 す る	健 康 な う ち に 、 ケ ア ハ ウ ス に 入 居 す る	健 康 な う ち に 、 有 料 老 人 ホ ー ム に 入 居 す る	介 護 が 必 要 に な っ た ら 、 有 料 老 人 ホ ー ム な ど に 入 居 す る	介 護 が 必 要 に な っ た ら 、 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム な ど に 入 居 す る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
			72.4	1.4									
総数	100.0 (4,767)	73.8	72.4	1.4	11.6	2.4	0.6	0.9	2.9	4.7	1.2	6.7	6.7

(2) 希望する高齢期の住まい一性・年齢階級、世帯構成(世代別)、配偶者の有無別

(報告書本文 P105)

世帯構成(世代別)で見ると、「高齢者用の住宅・施設に住み替えたい」の割合は、ひとり暮らしが最も高く、約2割

希望する高齢期の住まいについて、性別に見ると、「高齢者用の住宅・施設に住み替えたい」の割合は、男性9.9%、女性12.9%で、女性の方が高くなっている。

年齢階級別に見ると、「高齢者用の住宅・施設に住み替えたい」の割合は、年齢階級が上がるにつれて、低くなっている(6.5%~13.4%)。

世帯構成(世代別)で見ると、「高齢者用の住宅・施設に住み替えたい」の割合は、単身世帯(ひとり暮らし)が22.1%で、最も高くなっている。(表6-3)

表6-3 希望する高齢期の住まい一性・年齢階級、世帯構成(世代別)、配偶者の有無別

		総数	在宅で暮らしたい	現在の住宅にそのまま住み続けたい	子供や親族の家に移りたい	高齢者用の住宅・施設に住み替えたい	健康なうちに、シルバー住宅などに入居する	健康なうちに、ケアハウスに入居する	健康なうちに、有料老人ホームに入居する	有料老人ホームなどに入居する	介護が必要になったら、特別養護老人ホームなどに入居する	介護が必要になったら、特別養護老人ホームなどに入居する	その他	分からない	無回答
総数		100.0 (4,767)	73.8	72.4	1.4	11.6	2.4	0.6	0.9	2.9	4.7	1.2	6.7	6.7	
性別	男	100.0 (2,057)	75.2	74.0	1.2	9.9	1.9	0.5	1.0	2.5	4.0	1.7	6.8	6.5	
	女	100.0 (2,710)	72.7	71.1	1.6	12.9	2.8	0.6	0.9	3.3	5.3	0.9	6.6	6.8	
年齢階級別	65~74歳	100.0 (2,541)	72.9	71.3	1.6	13.4	3.3	0.6	1.0	3.1	5.4	1.2	7.9	4.6	
	75~84歳	100.0 (1,761)	76.7	75.3	1.4	10.3	1.5	0.6	1.1	3.0	4.1	1.3	5.5	6.2	
	85歳以上	100.0 (465)	68.0	66.9	1.1	6.5	0.4	0.2	-	1.9	3.9	1.1	4.5	20.0	
(世代別) 世帯構成	単身世帯 (ひとり暮らし)	100.0 (899)	63.5	58.8	4.7	22.1	5.8	1.6	2.0	4.4	8.3	2.3	8.3	3.7	
	一世代世帯 (夫婦のみ)	100.0 (1,818)	75.9	75.2	0.7	9.8	2.1	0.4	1.0	2.8	3.5	1.3	6.7	6.2	
	二世帯世帯 (親と子)	100.0 (1,449)	75.9	75.0	0.9	8.8	1.2	0.2	0.4	2.6	4.3	0.8	6.9	7.6	
	三世帯世帯 (親と子と孫)	100.0 (467)	79.2	79.0	0.2	6.0	0.9	0.4	-	1.5	3.2	0.4	3.6	10.7	
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (3,039)	77.5	76.8	0.7	9.2	1.6	0.4	0.8	2.8	3.6	1.1	6.4	5.9	
	配偶者なし	100.0 (1,716)	67.5	64.6	2.9	15.8	3.7	0.9	1.2	3.3	6.8	1.5	7.2	8.0	
	未婚	100.0 (243)	58.0	56.4	1.6	22.6	4.9	0.8	2.5	5.3	9.1	3.3	9.9	6.2	
	死別	100.0 (1,212)	72.4	69.7	2.6	12.0	2.1	0.3	1.1	2.9	5.7	1.2	5.4	9.0	
	離別	100.0 (261)	53.6	48.7	5.0	26.8	10.3	3.4	0.4	3.1	9.6	1.1	13.0	5.4	

第7章 コミュニケーション

1 日中独居

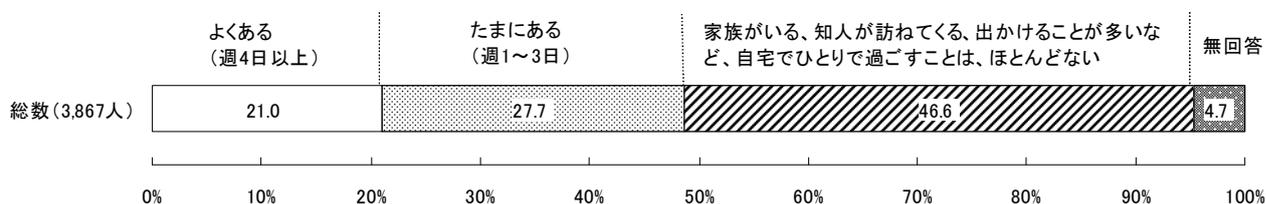
(1) 日中独居（報告書本文 P117）

日中自宅でひとりになることが「よくある（週4日以上）」割合は、約2割

家族と同居している人（3,867人）に、日中、自宅でひとりになることがどの程度あるか聞いたところ、日中自宅でひとりになることが「よくある（週4日以上）」割合は21.0%となっている。（図7-1）

問 ご家族が日中外出している（仕事や学校等）ため不在になり、日中、自宅でひとりになることはどのくらいありますか。

図7-1 日中独居



（注）集計対象は、現在家族と同居している高齢者 3,867 人

2 外出の頻度

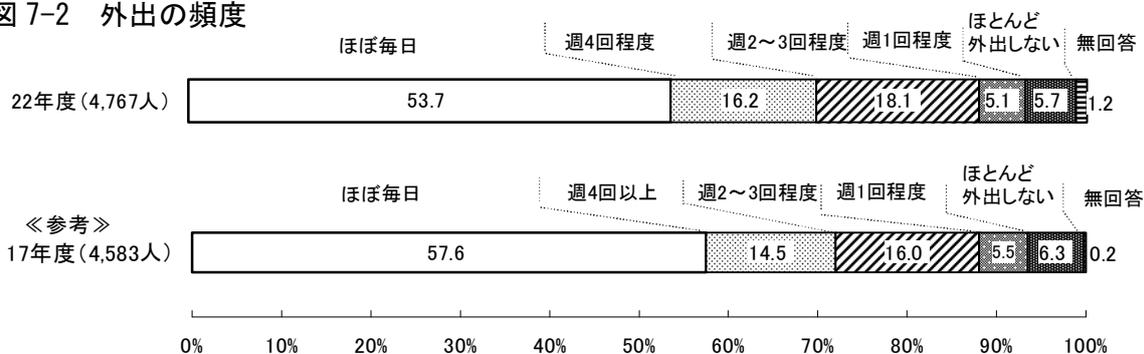
(1) 外出の頻度（報告書本文 P119）

「ほぼ毎日」の割合が最も高く、約5割

通常、どれくらいの頻度で外出するかを聞いたところ、「ほぼ毎日」の割合が最も高く53.7%、次いで「週2〜3回程度」が18.1%となっている。（図7-2）

問 あなたは通常どれくらいの頻度で外出しますか。

図7-2 外出の頻度



（注）17年度調査では、選択肢を「週4回以上」としている。

3 交流の頻度

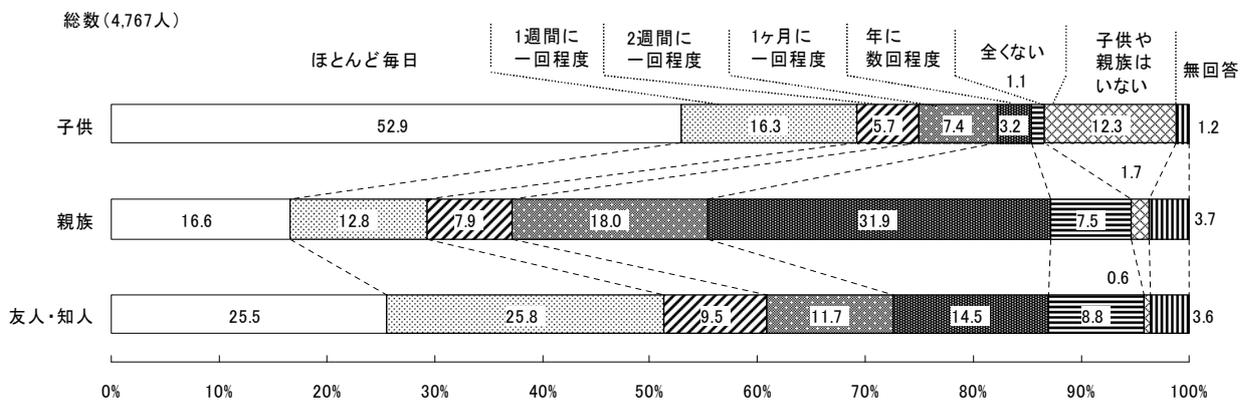
(1) 交流の頻度（報告書本文 P121）

子供との交流は「ほとんど毎日」の割合が最も高く、約5割

通常、どれくらいの頻度で、子供、親族、友人等と交流するかを聞いたところ、子供については「ほとんど毎日」の割合が52.9%、親族については「年に数回程度」が31.9%で、それぞれ最も高くなっている。友人・知人については、「1週間に一回程度」が25.8%、次いで「ほとんど毎日」が25.5%となっている。（図7-3）

問 あなたは、お子さん・兄弟などの親族・友人の方と、どれくらいの頻度で交流（話す、会う、電話、メール等）していますか。

図7-3 交流の頻度



4 緊急時の連絡先

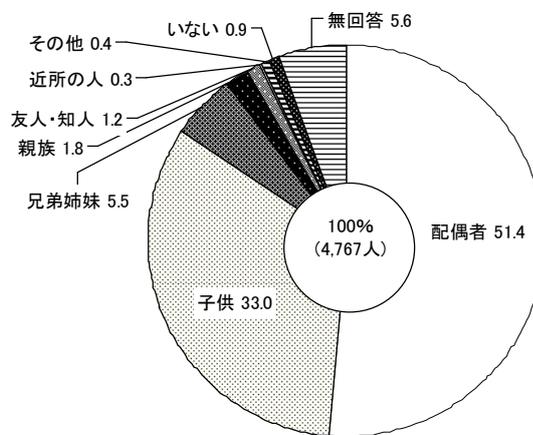
(1) 緊急時の連絡先（報告書本文 P127）

「配偶者」の割合が最も高く、約5割

緊急時に連絡をとるのは誰かについて聞いたところ、「配偶者」の割合が最も高く 51.4%、次いで「子供」が 33.0%となっている。（図 7-4）

問 あなたの身に何かあったとき（急病、災害等の緊急時）に、まず連絡をする、又は、連絡したいのは誰ですか。

図 7-4 緊急時の連絡先



5 近所づきあいの程度

(1) 近所づきあいの程度（報告書本文 P130）

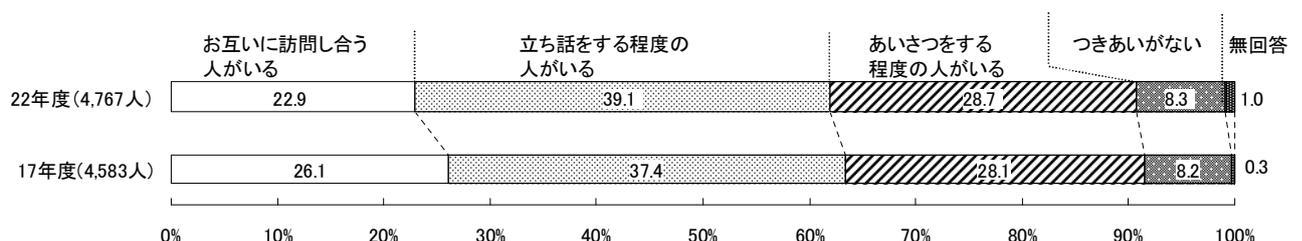
「立ち話をする程度の人がある」の割合が最も高く、約4割

近所づきあいの程度を聞いたところ、「立ち話をする程度の人がある」の割合が最も高く 39.1%、次いで「あいさつをする程度の人がある」が 28.7%となっている。

17年度調査と比較して、「お互いに訪問し合う人がある」の割合は、3.2ポイント減少している。（図 7-5）

問 あなたはご近所の方とどの程度お付き合いしていますか。

図 7-5 近所づきあいの程度



(2) 近所づきあいの程度－性・年齢階級、世帯構成（世代別）別（報告書本文 P131、191）

単身世帯（ひとり暮らし）では、「つきあいがない」の割合が14.5%で、他の世帯構成に比べて高い

近所づきあいの程度について、性別で見ると、「お互いに訪問し合う人がいる」の割合は、男性17.5%、女性は27.0%で、女性の方が9.5ポイント高くなっている。

世帯構成（世代別）で見ると、どの世帯構成でも「立ち話をする程度の人がある」の割合が最も高くなっている（35.3%～42.4%）。単身世帯（ひとり暮らし）では、「つきあいがない」の割合が14.5%で、他の世帯構成に比べて高くなっている。

ひとり暮らしでは、17年度調査と比較すると、「お互いに訪問し合う人がいる」の割合は9.2ポイント低くなっている一方、「立ち話をする程度の人がある」の割合は5.6ポイント高くなっている。（表7-1）

表7-1 近所づきあいの程度－性・年齢階級、世帯構成（世代別）別

		総数	人 お 互 い に 訪 問 し 合 う	人 立 ち 話 を す る 程 度 の	の あ い が さ つ を す る 程 度	つ き あ い が な い	無 回 答
総数		100.0 (4,767)	22.9	39.1	28.7	8.3	1.0
性別	男	100.0 (2,057)	17.5	37.5	34.7	9.4	1.0
	女	100.0 (2,710)	27.0	40.4	24.2	7.5	1.0
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,304)	21.7	41.6	29.1	6.3	1.2
	70～74歳	100.0 (1,237)	22.6	42.4	27.2	7.2	0.6
	75～79歳	100.0 (1,066)	25.5	38.9	28.5	5.9	1.1
	80～84歳	100.0 (695)	26.2	38.6	25.9	8.6	0.7
	85歳以上	100.0 (465)	15.7	24.9	36.6	21.7	1.1
（世代別） 世帯構成	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0 (899)	22.8	35.3	26.3	14.5	1.2
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,818)	23.7	39.9	29.5	6.1	0.9
	二世帯世帯（親と子）	100.0 (1,449)	20.6	42.4	29.5	6.7	0.8
	三世帯世帯（親と子と孫）	100.0 (467)	26.6	35.3	26.6	10.1	1.5
【参考】ひとり暮らし（17年度調査）		100.0 (863)	32.0	29.7	26.3	11.7	0.3

6 地域とのつながり

(1) 地域とのつながり（報告書本文 P133）

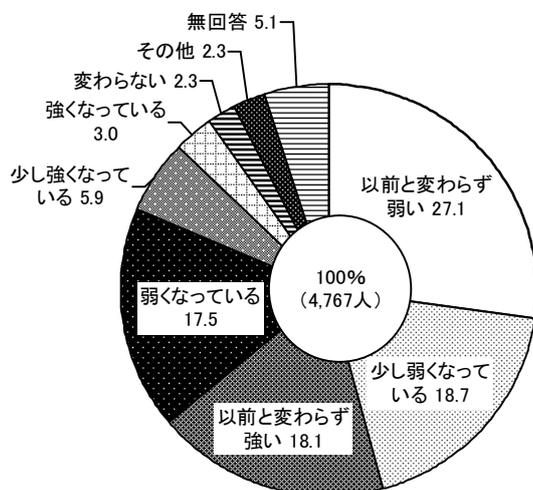
「以前と変わらず弱い」の割合が最も高く、約3割

地域とのつながりについて聞いたところ、「以前と変わらず弱い」の割合が最も高く27.1%、次いで「少し弱くなっている」が18.7%となっている。

「少し弱くなっている」、「弱くなっている」、「以前と変わらず弱い」を合わせた割合は63.2%で、6割を超えている。（図7-6）

問 あなたは、地域の方々とのつながり（近所付き合い、交流等）について、以前と比べて、どのように感じますか。

図7-6 地域とのつながり



(注) 統計比率を合算した比率(63.2%)は、個々の数値を合算して求めているため、比率の内訳とは一致しない。

第8章 社会参加

1 1年間に行った活動(複数回答)

(1) 1年間に行った活動(複数回答)(報告書本文P141)

「活動している」割合は、約5割

1年間に趣味やスポーツ等の活動を行ったか聞いたところ、「活動している」の割合は48.9%で、「活動はしていない」は50.4%となっている。(図8-1)

活動している人(2,329人)にどのような活動を行ったかについて聞いたところ、「スポーツ」の割合が最も高く53.8%、次いで「趣味のサークル活動」52.0%となっている。(図8-2)

問 あなたはこの1年間に以下のような活動をしましたか。

図8-1 1年間に行った活動(複数回答)

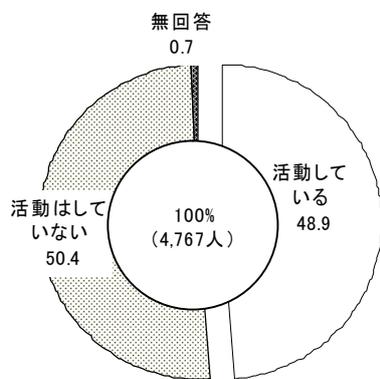
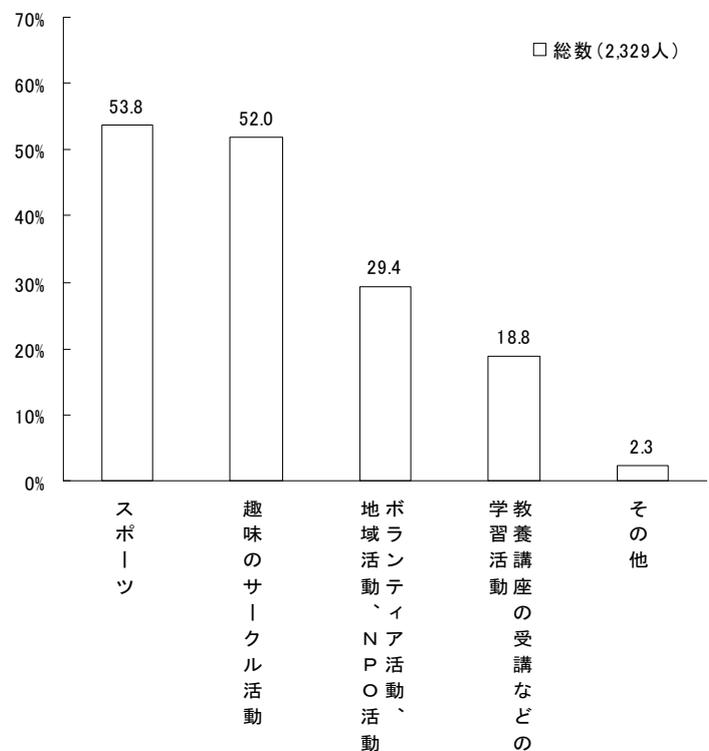


図8-2 活動している人の活動内容(複数回答)



第9章 就業・経済

1 最長職業、最長職業の業種

(1) 最長職業、最長職業の業種（報告書本文 P149）

「正規の職員・従業員」の割合が最も高く、約4割

今までに一番長く従事した仕事を聞いたところ、「正規の職員・従業員」の割合が最も高く42.2%、次いで「自営業者（家族従業者含む）」が24.5%となっている。（図9-1）

また、正規の職員・従業員、自営業者（家族従業者含む）、契約・派遣・臨時・パート、会社等の役員と答えた人（3,891人）に、業種を聞いたところ、「専門的・技術的な仕事」の割合が最も高く22.2%、次いで「事務の仕事」18.0%となっている。（表9-1）

図9-1 最長職業

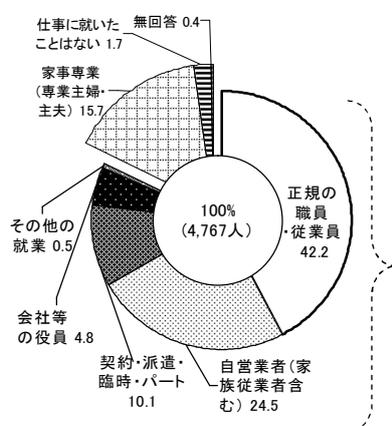


表9-1 最長職業の業種<正規の職員・従業員、自営業者（家族従業者含む）、契約・派遣・臨時・パート、会社等の役員の内訳>

	総数	管理的な仕事	専門的・技術的な仕事	事務の仕事	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他の仕事	無回答
総数	100.0 (3,891)	12.2	22.2	18.0	13.2	12.5	0.8	0.9	9.0	2.4	3.4	1.9	2.5	1.0

2 就業状況

(1) 収入のある仕事の有無（報告書本文 P151）

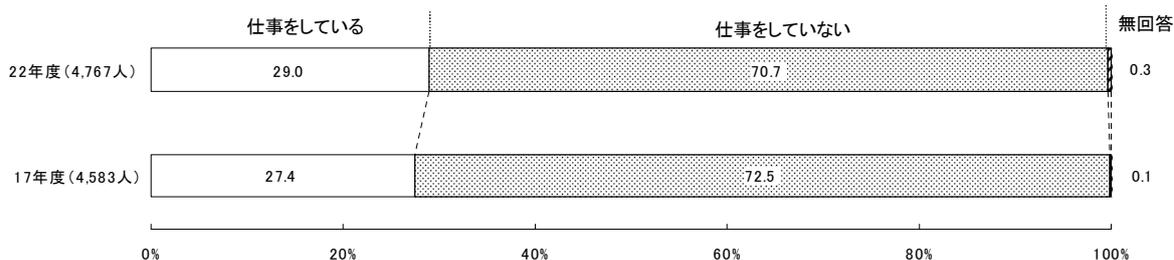
「仕事をしている」割合は、約3割

現在、収入のある仕事をしているか聞いたところ、「仕事をしている」の割合は29.0%となっている。一方、「仕事をしていない」は70.7%で7割となっている。

17年度調査と比べると、「仕事をしている」の割合は1.6ポイント増加している。（図9-2）

問 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。

図9-2 現在収入のある仕事の有無状況



3 経済

(1) 収入の種類(複数回答)・主な収入源(報告書本文 P160)

「収入あり」の割合は、98%。主な収入源は、「公的な年金・恩給」の割合が最も高く、約7割

平成 21 年中の収入の種類を聞いたところ、「収入あり」の割合は 98.3%、「収入なし」は 1.4%となっている。(図 9-3)

収入がある人(4,686人)に主な収入源を聞いたところ、「公的な年金・恩給」の割合が最も高く73.7%で、次いで「仕事による収入」が15.3%となっている。(図 9-4)

問 あなたの平成 21 年中の収入の種類は、どのようなものですか。
また、その種類のうち、主なものの1つはどれですか。

図 9-3 収入の種類(複数回答)

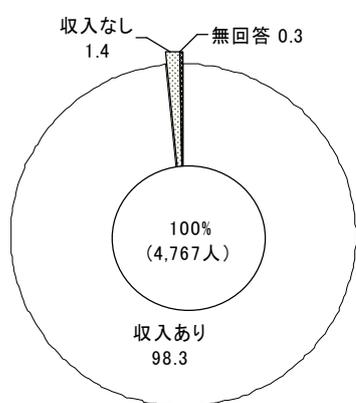
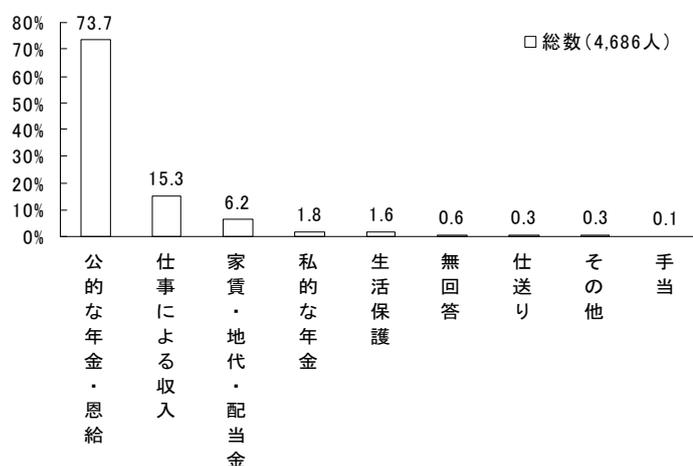


図 9-4 収入のある人の主な収入源



(2) 年収（個人）－性別（報告書本文 P165）

男性は「300 万円以上 500 万円未満」の割合が最も高く 21.6%、女性は「50 万円以上 100 万円未満」が最も高く 27.4%

収入がある人（4,686 人）について、性別で見ると、男性では「300 万円以上 500 万円未満」の割合が 21.6%で最も高く、次いで「250 万円以上 300 万円未満」15.4%、「200 万円以上 250 万円未満」15.0%となっている。

一方、女性は、「50 万円以上 100 万円未満」が 27.4%で最も高く、次いで「100 万円以上 150 万円未満」15.7%、「150 万円以上 200 万円未満」12.3%となっている。

男性は年収 200 万円以上が 67.5%と約 7 割である一方、女性は年収 200 万円未満が 63.5%と約 6 割となっている。（表 9-2）

表 9-2 年収（個人）－性別

	総数	50 万円未満	50 万円以上 100 万円未満	100 万円以上 150 万円未満	150 万円以上 200 万円未満	200 万円以上 250 万円未満	250 万円以上 300 万円未満	300 万円以上 500 万円未満	500 万円以上 700 万円未満	700 万円以上 1,000 万円未満	1,000 万円以上	無回答
総数	100.0 (4,686)	5.1	18.1	12.0	11.1	12.2	10.1	12.8	4.2	2.0	2.3	10.1
男	100.0 (2,035)	1.1	5.9	7.2	9.6	15.0	15.4	21.6	7.3	3.6	4.6	8.7
女	100.0 (2,651)	8.1	27.4	15.7	12.3	10.0	6.1	6.0	1.9	0.8	0.5	11.2

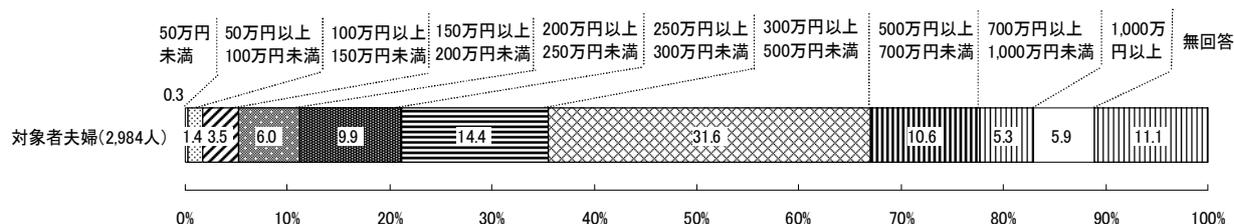
(3) 年収（夫婦）（報告書本文 P167）

「300 万円以上 500 万円未満」の割合が最も高く 31.6%

夫婦で同居している人（2,984 人）に平成 21 年中の夫婦の総収入（税込み）を聞いたところ、「300 万円以上 500 万円未満」の割合が最も高く 31.6%、次いで「250 万円以上 300 万円未満」が 14.4%となっている。（図 9-5）

問 ご夫婦の世帯の平成 21 年中の総収入（税込み）はおよそいくらでしたか。

図 9-5 年収（夫婦）



(注) 集計対象は、夫婦で同居している高齢者 2,984 人

第10章 東京都への要望等

1 高齢者に対する必要な施策や支援(複数回答)

(1) 高齢者に対する必要な施策や支援(複数回答)(報告書本文 P171)

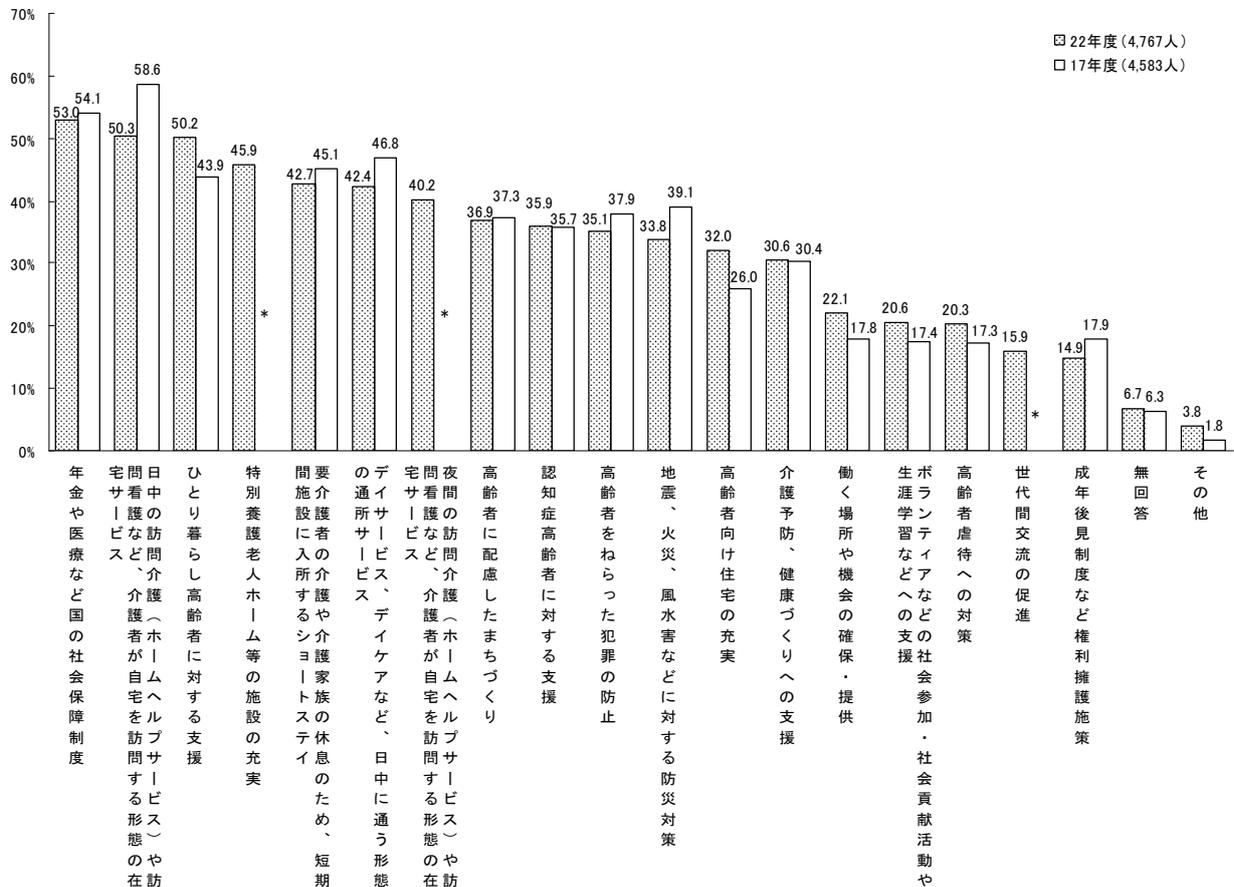
「年金や医療など国の社会保障制度」、「日中の訪問介護(ホームヘルプサービス)や訪問看護など、介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービス」「ひとり暮らし高齢者に対する支援」の割合が約5割

高齢者に対する必要な施策や支援は何か聞いたところ、「年金や医療など国の社会保障制度」の割合が最も高く53.0%、次いで「日中の訪問介護(ホームヘルプサービス)や訪問看護など、介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービス」が50.3%、「ひとり暮らし高齢者に対する支援」が50.2%と続いている。

17年度調査と比べて、「ひとり暮らし高齢者に対する支援」は6.3ポイント、「高齢者向け住宅の充実」は6.0ポイントそれぞれ増加している。一方で「日中の訪問介護(ホームヘルプサービス)や訪問看護など、介護者が自宅を訪問する形態の在宅サービス」は8.3ポイント減少している。(図10-1)

問 あなたが大切だと思う、高齢者に対する施策や支援は何ですか。

図10-1 高齢者に対する必要な施策や支援(複数回答)



(注) *は前回調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。